

よりよい施設生活を目指して

あした NO 07

療護施設の総合案内

目次

施設と在宅と自立生活	1
自己実現を目指す仲間たち	5
施設を替わって	7
どんぶり勘定にご用心	12
車いす男性、踏切で即死	14

読者の皆様に 事務局

★ルビ振りについて。

現在の事務局体制では残念ながら「ルビ振り」に回せるほどの余力がありません。そこで、もしも可能でしたら、録音テープにしたいと考えています。そうなりますと、テープをお貸しするなり、コピーしてお渡しすることになると思われ、送料なりテープ代にの特別な料金をいただくなくてはなりません。しかし、その分、ページをめくらなくとも良いとか、みんなで聞ける長所も考えられます。

そこで、いままで通りルビが必要な方や録音テープを希望される方の確認を取りたいと思います。ご意見を添えて、ぜひ、事務局までお申し出下さい。

施設と在宅と自立生活

京都 戸口 工

いつもこの会報を読んで、施設で皆さん頑張っているナアと関心を寄せています。いろいろ不満があっても国が建てたもの、当然行政の施策や規則がついて廻るから、ボクら在宅者のように施設の皆さんは自由気ままな暮らしにはならないことなのでしょうが、どうぞ時間割などをうまく調整して楽しく過ごして欲しいものです。そしていつの日かプライバシーもある、住み心地の良い環境で施設生活が出来上がる時を待って下さい。外から在宅者も頑張ります。

ボクの想像では、施設では就寝時間や食事内容、夕食時間、飲酒などに不満があるのでは？ と想います。実はボク自身、食生活に人生あり(´o`)と考えています。無論そこにはお酒も含まれていますが、施設ではアルコールは禁止されていると聞きますが、今でも独り静かに食前酒(晩酌)を味わうことでもダメでしょうね？ 酒は人により百薬の長と言われたり、逆に宗教家などは気狂い水と呼んでいます。どちらが正しいかは別としてアメリカやヨー

ロッパの市民は、子供でもまた昼間でも軽くビールやワインを食前に呑んでいます。アピタイト(食欲)の習慣ですね。

ボクも晩酌を欠かしません(´^`^)。でも日本では仕事が終わってから、つまり夜になったら腰をすえて(´o`)、じっくりと呑み出します。サラリーマンの半分以上は帰路ちよいと一杯ひっかけているのでわ？ でも深酒は健康はおろか周囲にも迷惑すらかけますから、やはりルールを守りスマートに呑んで欲しいものですね。常識やマナーは酒以前の問題だし、それが施設での晩酌党結成に結びつくわけですから……。近い将来、ボクも入所候補生の一人です。その節は早速入党したいわけドス(´_`;)。

ボクの障害は筋萎縮という難病です。二十歳まで何とか歩けたものの年々進行が続き、転んでも起き上がれなくなって足を捨てました(´^`^)。ボク自身、どちらかといえど割り切り方も決断も速いタチです。しばらくコロの付いた事務イスで店番などをやっていました

が、その後電動車イスの出現で、その上下作動もする電動車イス「ローバー」のお陰で自立することが出来ました。年齢がバレますが、もう30年近くこのローバーに乗っています。何分腕力も弱いから、このローバーがなければ今頃ボクも擁護施設か国療に入っていたことでしょう。そして酒も呑めない、夕食時間も早い給食生活にストレスを高め、イライラ人生を送っていたかも知れませんネ。

ボクが未だ歩けた少年の頃、身障者職業訓練所で施設生活の経験があります。10畳ほどの部屋に6人が雑魚寝し、起床・消灯と規則に縛られ、粗末な夕食も5時というムシヨ暮らし(^_^)のようなものでした。前述のようにボクの生き甲斐は晩酌と多彩の食にあり、また睡眠も一人静かに個室のベッドが理想で、そのムシヨ暮らしは正に難民扱いのものでした。ところが後年、授産施設や療護園、国立療養所には友人や仲間が入っており、何ヶ所か見舞ったり見学もしましたが、未だに雑居型、入院患者扱いですね。二人部屋もありましたが、車イスがターン出来ない狭さでした。経済発展から我が国も福祉先進国の仲間入りをしましたが、これじゃ未だ未だ幸せな暮らしとは言

えませんナア。障害者にとっても与えられた折角の人生、少しでも生き甲斐のある生涯であって欲しいものです。また多くの障害者が結婚希望を抱かれています。こんな状況では夫婦生活も出来まへんわ(^o^)。やはり施設生活にも生き甲斐を感じるものでなければ。

もう17年も前ですが、朝日新聞の車いすヨーロッパツアーで訪れたオランダの障害者村では、みな個室に住んでいましたネ。CPの電動車イスの女性は10畳ほどの部屋に一人で暮らし、セミダブルのベッドにデスクがあり、トイレ、洗面所も付くホテル並の豪華さで、これが施設？ とみな目を見張りました。その上彼女は猫を飼いながら悠々自適な日々を送っていましたヨ。日本の施設では小鳥も飼えないでしょうに……。これなら結婚もできそうドラ(^o^)。二人で住めればイイのですから。

またその村には郵便局も教会もレストランもありました。日本ではメシは食堂に集合ですが、ここでは気ままにレストランで(^_^)。つまり好きな時に、好きなメニューが選べるなんて……。しかし、これが本来の人間様のお食事です。健常者はどうでしょうか？ 夜8時でも9時でも飲食店は賑わって

ます。ボクは健常者と同じ様な生活をする事が自立生活だと思っています。だからテレビ映画の後で、遅い晩飯を食うこともあります。決められたメシを、決められた時間に食わされるのは刑務所と同じでんナア。今や世界が羨む金満国ニッポンが、この17年前のオランダの真似が出来ないわけがありません。寧ろそれ以上の福祉予算を使いながら、こんなことも出来ていない、と言うべきかも知れませんゾ。この点からも皆さんの暮らしがちっとも幸せなものとは思えません。もしボク自身が施設生活をしていたら、惨めな人生観を抱いただらうナアと想いました。そしてしょぼくれて精彩がなく、顔も老け、元気もなく、うつ病患者に仕上がったかも知れまへん。

筋萎縮は筋ジストロフィーとも表現され、毎年ジワジワと進行が続きます。もう町で一人前に仕事も困難となった時、ボクは福祉工場を訪ね就労相談もしました。寮は10畳ほどの2人部屋で寝起きは何とかなりそうでしたが、でも風呂場が使いにくく、とても独りでは入浴できそうもありません。それは、ここでは全てを自分自身で用足すことが入社条件でした。脊損なら兎も角これぢや重度障害者を閉め出す名目上の福祉で、

何か財政的に名譽的に福祉を名乗っているように感じました。本当の障害者とは重度障害者を指すのですから……。トイレもお風呂も自分一人で用足し出来る者は、ボクから観れば障害者ではありませんえーん(´)。)

そこでボクは海外旅行もよくやっただので、機関誌で知り合った方を頼りにフィリピンに亡命(´o´)しました。無論遊びがてら現地の様子を見に行っただのですが、まだ東京では雪が降らんとするのに、現地は真夏でTシャツ一枚の気候にすっかり気を好くしました。寒いのは嫌ですからネ。その上、円高の恩恵で物価の安さに驚き、更にボクらにとっては有難きことながら失業者が溢れていました。当然ボクには介助人が必要だからです。早速介助人を見つけ或る日本人宅と一緒に下宿し、現地生活に慣れたところを見計らって借家を捜し、その介助人と自立生活に入りました。



フィリピンはとかく治安問題が心配
されますが、ここはキリスト教のお国
ドス。罪を犯してはならないのダ(^)。
外国人が多い都心は兎も角、ちょっと
郊外に出ると素朴な田園風景に替わり、
市民も至ってナイーブで親切で、丁度
日本人がアメリカ人に好感心を抱くよ
うに、彼らも日本人を友好視している。
ただ戦犯やヤクザは別問題ですが。

また現地では雇用・解雇も自由自在
で、ボク自身5～6人の女中を入れ替
えもして、最後は女中と少年を雇い、
昼間は少年を学校にも行かせました。
当時の障害年金64000円でも十分
やれ、更に円高が進んで今でも彼らの
月収は1～2万円である。無論、女中
のサラリーはもっと低い。

ボクは朝から1本25円のビールを
煽り、ラジカセで音楽を堪能し、マッ
サージを受けて昼寝をするなど、のん
びりリタイヤライフを楽しんでいたが、
何故か同じ屋根の下で男女が住むと、
いつの間にか女中とも夫婦のようにな
り、子供まで産まれてしもうた(^o^)

そんな時、日本で車イス住宅が確保で
きたことで帰国したわけですが……。

そろそろ制限時間も字数も過ぎたの
で、これにて筆仕舞いといたします。
後は興味があったら拙著を読んでおく
れやす(^_*)。おおきに。

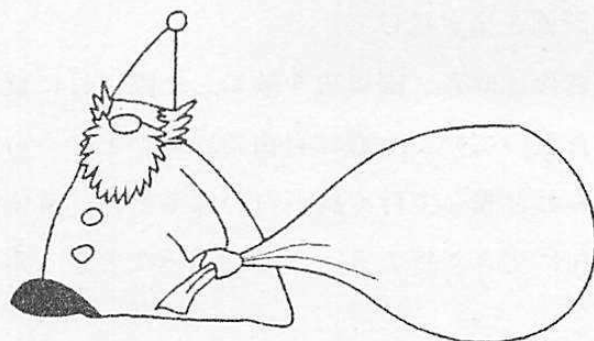
【著書案内】

- 1 電動車イス「もう一つの自立」
～フィリピンに住んで～
¥650- (〒240円) 残極少
- 2 電動車イスの自立作戦
「ローバーとの歩み」
～ボクはこうして自立した～
¥850- (〒240円) 残僅少

【申し込み先】

郵便振替 00170-9-0114372
AYA工房 まで
FAX(075)582-1066

※ 2冊の場合も送料は 240円です



自己実現を目指す仲間たち

佐々木秀雄さんの巻

新聞記事の切り抜き

自由な心表現

<障害者の全国コンテスト>詩画で最高賞

井川町寺沢の身体障害者療護施設「桐ヶ丘療護園」（小林喜雄理事長、入所者80人）の入所者、佐々木秀雄さん（46）の詩画（しいが）「わたぼうし」がこのほど、「第3回アート村・夢のデザイン大賞」で最高の賞であるハートフル賞を受賞した。「軽い気持ちで出品したので、まさか賞を取れるなんて」と佐々木さん。さらに念願だった個展の開催も決定し、二重の喜びに浸っている。

井川町の佐々木さん12月には個展開催

アート村・夢のデザイン大賞は、「才能に障害はない」をコンセプトに障害者アーティストの発見、育成を目的としてアート村プロジェクト（事務局・東京都港区）が主催している。3回目の今回は絵画や陶芸など約200点が全国から寄せられた。

このうちハートフル賞に選ばれたのは佐々木さんを含め、わずか3人。「見る者を優しい気持ちにさせる」「作品に吸い込まれていきそうだ」と高い評価を受けた。

佐々木さんは岩城町出身。25歳の時、交通事故で首の骨を折り、首から下がマヒ。手足が不自由となり、両手の握力はない。しかし5年ほど前から筆を親指と人さし指の間に挟み、肩の力を使って筆を動かす方法で、水彩画と詩を組み合わせた詩画を描き続けている。

受賞作は昨春、園周辺を散歩した際に目に留まったタンポポを描いたもの。障害は背負っていても心は自由でいたいという心境を、青空に吸い込まれるようにふわふわと飛んで行く真っ白い綿毛と、「身体は動けなくても 心はいつも 自由自在に生きて行こう… そう思ったとき 重くのしかかっていた 苦しみから

フッと 解き放されたような気がした」という詩で表現している。

この快挙に園内は沸き、佐々木さん自身も「作品を通して自分と同じ障害者に、心だけは不自由にならないよう共に頑張っていこうと訴えたかっただけ。賞を狙う気は全くなかった」と驚きを隠せない。

さらに興奮覚めやらぬ佐々木さんの下に、大きなニュースが舞い込んだ。先月、秋田市中通のアトリオン展示室の使用を申し込み、抽選でその権利を獲得、夢だった個展の開催が実現する運びとなったのだ。期間は12月9日から16日までの8日間。初日の9日は偶然にも障害者の日に当る。

「4、5年のうちに開ければと思っていたのに、まさかこんなに早く実現するなんて。周囲のみなさんの温かい支援のおかげです」と、相次ぐ朗報に喜びも倍増の佐々木さん。「受賞作の『わたぼうし』をはじめ、これまで描いた作品の中から選んだ20～25点のほか、新作5点ほども展示したい。体が不自由でも周囲の人々に支えられながら、障害に負けないで生きているあかしを見てもらえれば」。夢だった個展の開催に向け、目の輝きはますばかりだ。

詩画集の発刊も予定しているそうです。その時はお知らせしますので、皆さんも是非応援して下さいね

四国シンポ資料頒布のお知らせ

四国シンポで配付された資料の主なもの1. 「人権ガイドラインを展望する」、2. 「シンポジウム資料」と3. 「活動報告集」ですが、そのうち「人権ガイドラインを展望する」はすでに1冊1500円（+送料300円）でお分けしております（詳しくは「あした」4～5号をご覧ください）。そこで、記念講演やシンポジウムの参考資料を集めた「シンポジウム資料」と各地の実践例を集めた「活動報告集」についても大会に参加されなかった方々のためにも2冊あわせて実費でお分けすることになりました。詳しくは事務局宛てにお問い合わせ下さい。

施設を替わって

匿名希望

今春、私は施設を変わりましたが、同じ療護施設なのに、生活が大きく違うことを、実感しています。

以前いた施設（仮にA園とします）は、開所して5年の所で、私は、4年数カ月いました。

今いる施設は、今年4月に、開所したばかりの所で（仮にB園とします）同じ「ものさし」で、計ることは、できませんが、私なりに感じた事を、書かせて頂きます。

1番違ったのは、自由が多くなったことです。

A園（相部屋）、B園（個室）という物理的条件の違いもありますが、理事長や施設長の考え方が、まったく違いそれが、各々の運営に表れています。

A園では「ケガや事故が無いように」「健康管理」を名目に、規制・管理の厳しい所でしたが、B園では、規制もほとんど無く、本人のやる気さえあれば、何でも、やらせてもらえます。

利用者の生活を、どの様に考えているかによって、職員の動きも違うのです。

A園とB園の違い（設備や介護内容規制など）を、表にしてみました。

CCCCCCCCCCCCCCCCCCCCDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDDD

←----- A 園 -----→ ←----- B 園 -----→

< 建物 >

山を整地した所で、道路より急な坂道があり、車椅子での昇降は無理

2階建（1、2階に居室あり）

< 建物 >

同じく山の上であり、A園より高いが坂道が長いため、電動車椅子なら可能

2階建（1階は、ディサービスと厨房 2階は、居室等の生活スペース）

< 定員 >

利用者 50名 + ショート 数名
職員 36名

< 定員 >

利用者 50名 ショート 10名
職員 38名

< 居室 >

4人 8室
3人 4室 (静養室・ショート
含)
2人 4室
個室 4室

< 居室 >

個室 48室 (15㎡、トイレ、
洗面台付)
4人 3室 (ショート含)

< 冷暖房 >

居室に、スイッチとサーモスタット
が、付いているが、元の制御は全て
寮母室で行ない、時間制限あり 冬
18℃、夏28℃の気温で、元を入
れる

< 冷暖房 >

居室にスイッチあり、24時間元
が付いて、各自で調整。

< 面会 >

制限あり、家族以外は、居室の入室
禁止、17時まで。
面会者の宿泊なし

< 面会 >

制限なし
時間も常識範囲内で自由
面会者の宿泊可能で、寝具、給食
も有料で可能

< 外出・泊 >

必ず介護者 (責任者) が付き、書類
(捺印) を提出。
家族以外が介助の時は、事前報告

< 外出・泊 >

外泊の時は、書類提出
外出は、単独でも可
(私は、近所のコンビニへ行くの
が楽しみに！なりました。)

< 行動 >

車椅子に乗る時間も決められ敷地内の散歩も制限あり
食事時間も、長いと、怒られる

< 行動 >

車椅子に乗る時間・回数も自由
敷地内の散歩も自由
食事時間も、怒られない。

< 入浴 >

週2日、半日体制（午後のみ）
女性の入浴にも、男性職員が付く
ふた月に1回の割合で、チェア浴あり

< 入浴 >

週2回、1日体制（午前・後で男女を分け、女性の入浴介助は、男性職員は、付かない。）
脱衣場が狭く、居室で脱着衣をする。（バスローブ支給）

< トイレ介助 >

排泄時間にトイレ、オムツ交換を済ませなければ、その他の時間の介助を受けられない。

< トイレ介助 >

排泄時間も、あるが、その他の時間も介助してくれる。

< 医務 >

週3日、来所し、必ず全員を回診する。看護婦は常勤。

< 医務 >

週3日 来所するが、異常のある者だけ、回診する。看護婦は常勤

< 金銭管理 >

一部の人を除き、皆、預ける
通帳は、入所時に作り、預ける。

< 金銭管理 >

自己管理だが、障害によって、預けるが、本人の要求に応じてくれる。

< 買物 >

売店なし
全ての買物を、施設に頼む（寮母→事務所 → 理事長 → 行くか、業者）

< 買物 >

週1回、売店あり（主に食物）
注文も可能。
職員さんにも、頼める。

最低1週間は、掛かるが、職員には頼めない。

< 副食・飲酒 >

飲食物を、全て預ける
週5回、午後3時のおやつ時間だけ寮母から、種類や量を決めて渡される。
飲酒は、医務の許可を得て、週2日夕食時に一定量だけ飲める。

(有料)

< 副食・飲酒 >

飲食物は、自己管理で、いつでも自由に飲食。
介助も、忙しくなければ頼める
電子レンジ等の対応もしてくれる。飲酒も自由

< 郵便物 >

着・送信の全ての差し出し名と宛名を務所で転記される。

< 郵便物 >

小包等の特殊な物のみ 一 差し出し名と宛名を、事務所で転記される

< ナース・コール >

夜勤帯に、ナースコールを押すと、(必要な内容でも)翌朝、寮母主任が何回、鳴らした!と、怒る。

< ナース・コール >

いつでも、何度押しても、怒られない(私から見れば、甘すぎるように、感じる。)

CCCCCCCCCCCCCCCCCCCCCCCCCCCCCCCCCCCC

表に書いた事柄は、形として、見て解りますが、私達利用者が、一番感じるのは、介護する側の気持ちや、考え方だと、思います。

前記したように、経営者(この言い方は不適當ですが)の考えや、職員の間違った違いは、施設生活を、大きく変えてしまいます。

A園は、経営者が、帳簿と無事を、重視するワンマン経営で、職員は、そのワンマンに振り回され、仕事が増えることを嫌い、そのしわ寄せは、利用者にも、集まります。

「50人に出来ないから、ひとりにも、しない。」という考えでは、自分に合った介護は、受けられません。

「あした」N.O. 5の小峰さんの意見（平均値に、ご用心）にあったような、平均値的な考えの施設です。

B園は、個性を生かし、プライバシーを尊重しようとの考えが、経営者にあり、職員も個々の対応を、してくれます。利用者が、日常動作に困ったり趣味を広げようとするれば、補助具等を作ったり、時間をつくって介助してくれるのです。

勿論、全体活動として、ゲームや体操 絵や工芸・手芸なども、取り組んでいます。

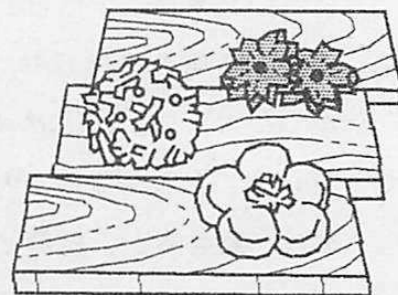
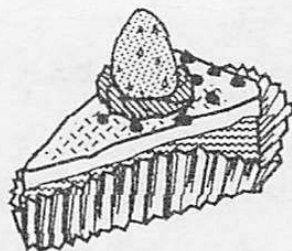
こうして書いてみると、B園は、良い事ばかりのようですが、いくつか問題点は、あります。

開所して間もないため、職員も不慣れで、設備も不備で、試行錯誤の状態なので、病院から入所した人や、在宅からの人は、「ひどい所」と、言っていますが、楽観主義の私は、A園で押え込まれていたお蔭で？ B園での自由な生活が、夢のようです。

ただ、個室のせいか、利用者の連帯感が、少ない様に、思います。

これから、年月が経ち、問題が起きて規制・管理が厳しくなったりしないように、私達利用者は、節度を守って生活しなければ…と、実感します。

施設の違いを書きましたが、私はふたつの施設の全てを！知っている訳ではないので、情報としては、不十分だったと、思います。ご了承下さい。



どんぶり勘定にご用心

小峰和守

施設って何でこんなに問題ばかり多いのでしょうか。たまには、水戸黄門がやってきて、助さん・格さんとで悪い役人を懲らしめて「一件落着」としてくれれば大助かりなのにネ。しかし、世の中はそんなに甘くないようで、自分たちの抱える問題は一つ一つ自分たちで解決していく以外に方法はないようです。

そこで、参考までに危険な発想くどんぶり勘定>についてお話してみます。

問題をあれこれどんぶりに放り込んでかき回し、本来の姿を判らなくしてしまう見方をくどんぶり勘定>といいます。

例を二つあげてみましょう。ひとつは利用者が「施設」をどんぶりにする例です。

「うちの施設は食事はずいぶん、外出もままならないし、入浴も充分できないし、利用者同士喧嘩ばかりやっている。みんな施設が悪いからだ」というものです。

食事の問題も外出の問題も入浴の問題もごったまぜにして、あげくの果て

に施設が悪いことにしてしまうのです。こう発想しては問題は解決しません。いっぺんに悪い施設を良い施設に直す方法は残念ながらないからです。一つ一つの具体的な問題を解決していくなかで、少しずつ良い施設になっていくのです。

もう一つの例は外出を「安全管理の問題」というどんぶりにする例です。

「交通量の多いところや、踏切や、歩道のないところの問題、車いすの運転技量のことや、自己責任のこともあり、安全管理の問題で外出禁止です」というものです。これもさまざま考えられる危険をかき回し、「安全管理の問題」というもつともらしいどんぶりに入れてしまうのです。

この「安全管理の問題」というどんぶりは便利で、飲酒や金品や間違えると郵便物にも用いてしまうこともあります。さらに、「安全管理の問題」を御旗にして、そこで思考を停止してしまうこともあるのです。

ここで、誤解されないように申し添えておきますが、安全管理が不必要だ

といているのではありません。安全管理というどんぶりにいれて「事足れり」としたら何事も解決しないし発展しないとっているのです。

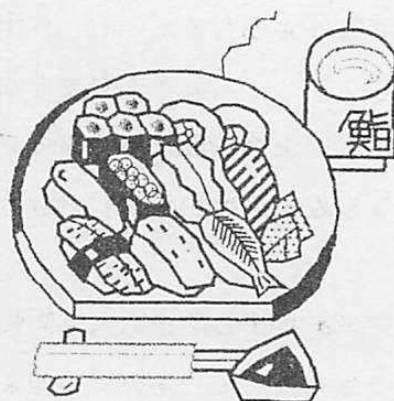
問題を解決するには、あれもこれもと抱え込んで「施設」や「安全管理」に問題を広げる——どんぶり勘定する——のではなく、逆に、ひとつの解決したい問題に焦点をあて、深く観察していくことから始まります。さらに、その問題について考えられるだけの原因を洗い出し、それにひとつひとつの対策を与えて、はじめて問題が解決するのです。

先ほどの外出の場合は具体的な原因を考えられるだけ並べ、次に、おのこの対策を考えるのです。運転技量や自己責任の原因については講習会や勉強会で、交通量の多いところや踏切については避けて通るとか、歩道については市に要請に行くとかです。ひとつひとつ、こつこつ原因と対策を考えて

いくしかないのです。こうしてはじめて外出が可能になるのです。

ここで注意したいのは、その取り決めが100%の理想案でなくても可として良いと考えています。次のステップでさらに自由の輪を広げていけばいいからです。そして、たぶんそのための努力は最初に生み出すものに比べれば格段に少なく済むはずでもあるからです。

最後になりますが、小さな問題でも解決することができれば、それだけの達成感や充実感がえられます。さらに、効果はそれだけではないのです。実は、その手法や組織が次の問題解決の際にも使えるようになるのです。残りのすべては応用問題で片づけられるのです。そして、これこそが皆様の力になるとともに、施設改革の大きな原動力にもなるのです。どうか、問題を絞り込んで解決にチャレンジしてみてください。



車いす男性、踏切で即死神戸

一七日午後四時半ごろ、神戸市北区有野町二郎の神戸電鉄中島第一踏切（警報機、遮断機つき）で、車いすに乗った、近くの身体障害者療護施設「二郎苑」に入所している後藤謙児さん（60）が、新開地発三田行き下り準急電車（四両編成）にはねられ、即死した。兵庫県警有馬署の調べでは、踏切は幅五・三メートル。運転手は約百五十メートル手前で後藤さんに気づき、警報を

数回鳴らしてブレーキをかけたが、間に合わなかったという。

後藤さんは若いころ精米店で仕事に事故に遭い、後遺症で下半身が不自由なうえに、難聴という。一九九二年に二郎苑に入所した。この日は付き添いなしで、一人で行動していたらしい。同署は、何らかのトラブルで動けなかったのかどうかなど、原因を調べている。家族によると、後藤さ

んは週に一回程度、神戸市内の教会にタクシーで通うなど熱心なクリスチャン。

二郎苑の黒田博之施設長によると、後藤さんは事故に遭う十分ほど前に二郎苑を出たという。黒田施設長は「遠出の時は外出届を出してもらっているが、付近の散歩は本人の意思に任せていた」と話している。

またしても不幸な事故が起きてしまいました。後藤氏のご冥福を心からお祈り申しあげます。

最近、駅のプラットホームから車いすごと転落してけがをしたとか、車道を電動車いすで通行中に車に追突されて亡くなったりとか、車いすの事故をよく耳にします。今回の事故も、推測ですが、踏切のレールの溝に車いすの前輪（キャスト）がはまりこんで身動きできなくなったように思われます。皆様も充分気を付けて下さい。

今回の事故は、確かに、ひとりで出かけなかったら防げた事故かも知れません。だからといって、介助者を付けない外出を禁止するとしたら全く筋違いの話です。

問われなくてはならないのは、施設の責任ではなく、車いす環境の劣悪さです。

車の出入りのために歩道に付けられた勾配のきつさ、車いすの通行がぎりぎりのプラットフォーム、キャスターがはまりこんで身動きできなくなる踏切などは、以前から障害者団体が改善を要望していたところでした。施設の問題ではなく、車いす生活者全員の抱える問題なのです。そんな点からも、施設利用者と言えども町作り運動に積極的に関わりを持っていかなくてはなりません。

編 集 後 記

1. 会員名簿作成のために公表確認のためのお便りが届いているはずですが、いかがでしょうか。もしもまだの方がいらっしゃいましたら、事務局へお問い合わせ下さい。

また、お便りの中の返信用のはがきをご記入の上、必ず投函していただけますようお願い申し上げます。

2. 5月発行予定の「あした」はパソコン通信特集を考えております。つきましては、施設のなかでどんな仕組みでやっているのか、どんな風に役立っているのかなどの原稿を募集しております。（締切3月末、字数不問）それと合わせて各自のIDもご連絡下さい。



<small>りょうごしせつじちかいぜんこく</small> 療護施設自治会全国ネットワーク機関誌		<small>さかんし</small> 『あした』 No 5
<small>はつこうび</small> 発行日	: 1996年 8月15日	
<small>はつこうしゃ</small> 発行者	: 『療護施設自治会全国ネットワーク』事務局	
<small>ねんらくさき</small> 連絡先	: 〒204 <small>とうきょうときよせし</small> 東京都清瀬市3-1-72 <small>とうきょうときよせりょうごえん</small> 東京都清瀬療護園	
	TEL. 0424-93-3235 (代表) FAX. 0424-93-3234	
<small>ゆうびんりかえ</small> 郵便振替	: 『療護施設自治会全国ネットワーク』 00180-0-715838	

療護施設自治会全国ネットワーク